

3. 自然環境の保全

目標指標 西山の森林のCO₂吸収量

平成27年度の目標	平成27年度の結果
1,274+-CO ₂ 以上	1,408.57+-CO ₂



(1) 西山の保全・再生・活用

①西山の森林整備

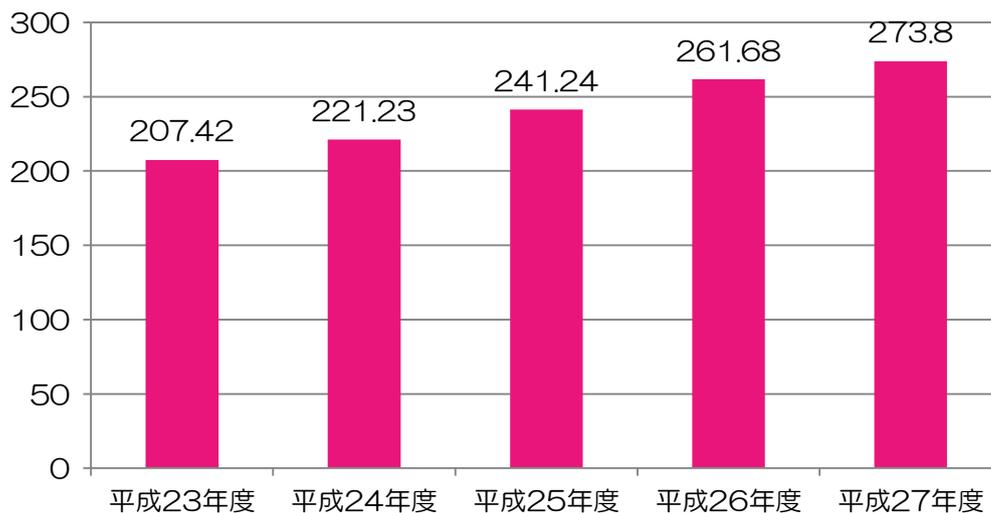
森林整備面積（竹林含む）

平成27年度の目標	平成27年度の結果
延べ251ha	延べ273.8ha



森林整備とは、森が健全に育成し、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。

(ha) 過去5年間の森林整備面積の推移（延べ面積）

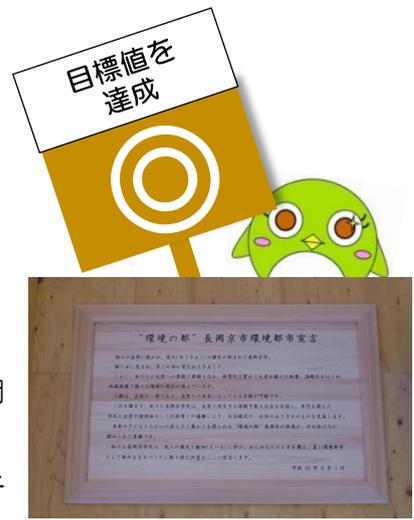


森林整備面積のうち利用間伐した面積

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
延べ 10 ha	延べ 10.1 ha

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成 23 年 11 月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

平成 27 年度は、環境都市宣言看板、はっぴいバスのバス停のベンチ等に利用しました。



環境都市宣言看板（西代里山公園管理棟内）

②西山の生態系の保全

モニタリング 1000 里地調査の支援

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
調査項目 4 項目	調査項目 4 項目

環境省が実施するモニタリング 1000 里地調査に、ボランティアの皆さんが参加しています。この調査は、全国の多数の場所で統一した方法により、各種の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして哺乳類、鳥類、チョウ類、植物相の 4 項目の調査を実施しています。継続的に調査をすることで、この区域に住む生物の保全につなげていきます。



③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
活用方法の検討・関係課等と打合わせの実施	検討・協議の実施

平成 27 年度は、キャンプ場内及び経路の安全点検及び設備点検を行うほか、老朽化した橋 4 カ所の修繕を実施しました。また、簡易水洗トイレの衛生面への取り組みとしてキャンプ場開設時にも汲み取りを行いました。

キャンプ場の設備については、管理人や夜間照明の設置などが困難なため、西代里山公園との連携を踏まえた施設利用などについて検討・協議を行いました。



④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
組合員数 104人	組合員数 104人

西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を事務局として支援しました。



(2) 竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
延べ 10.0ha	延べ 15.14ha

西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げたり、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。そのため、森林の整備とともに竹林の整備も行っています。今後も引き続き、定期的な整備を行っていきます。



②竹の利活用の調査研究

乙訓竹の再利用調査研究連絡調整会議での実証研究

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
竹チップの利活用を事業化	事業化開始

タケノコを特産物とし、多くの竹林を持つ乙訓の2市1町（向日市、大山崎町、長岡京市）では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

平成27年度は、JA京都中央が事業主体となってタケノコ畑の伐採竹材を買い取り、平成26年度に導入した竹チップパーを用いて、たい肥や、雑草防除に活用するための竹チップを製造販売し、事業化を始めました。



(3) 環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
300千円/年	300千円/年

特産品の花菜の^{ほしよ}圃場に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の30戸の農家で栽培している花菜は、平成2年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成17年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
利用者数 200人	利用者数 170人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために60歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内3か所の農園で、170人の方が利用されています。農地の確保が難しい現状もありますが、市民農園の充実に向けて、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取組みの充実

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
学校給食納品額 480万円以上	856万円

長岡京市の全10校の小学校すべてで地元産の野菜を給食に使用しています。平成27年度は、全給食費の約4.0%分が地元での野菜購入費になりました。

特産のナスやタケノコ、花菜なども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
遊休農地 14 ha 以下	遊休農地 12.4 ha

長岡京市の農地は、平成 27 年度末現在で 259.2ha あり、そのうち 12.4ha (4.8%) が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。農地の適正な管理やまちなかに多くの農地がある貴重な景観の保全の観点からも、今後も農地パトロールの実施や農地銀行制度の周知を図っていきます。(※農地銀行制度…農家間で農地の貸し借りを円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介を行う。)



(4) 水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
支援継続	支援継続

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。平成 27 年度は 6 団体に延べ 650 枚のごみ袋を交付しました。より多くの団体に参加してもらうため、目標を拡大しましたが、平成 26 年度と比較して、1 団体が減少し、交付枚数は 50 枚減少しました。

近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やポイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。



②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育の実施・小泉川流域での河川清掃

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大	ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大

長岡京市西部を南北に流れる小泉川には、ゲンジボタルやハイケボタルが生息しています。特にゲンジボタルは、水がきれいなところでしか生息しないとされており、市内でも数が減少してきています。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や卵からの人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでいます。

また、平成 28 年度に完成予定の西代里山公園の区域内にはホタルの生息域があることから、今後も環境の変化によるホタルの生息状況を見守っていきます。



4. 快適な都市環境づくり

目標指標 住民一人あたりの公園面積

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
住民一人あたりの公園面積 2. 85 m²	2. 78 m²



(1) 身近な緑の保全・創出

① まちなかの緑の創出

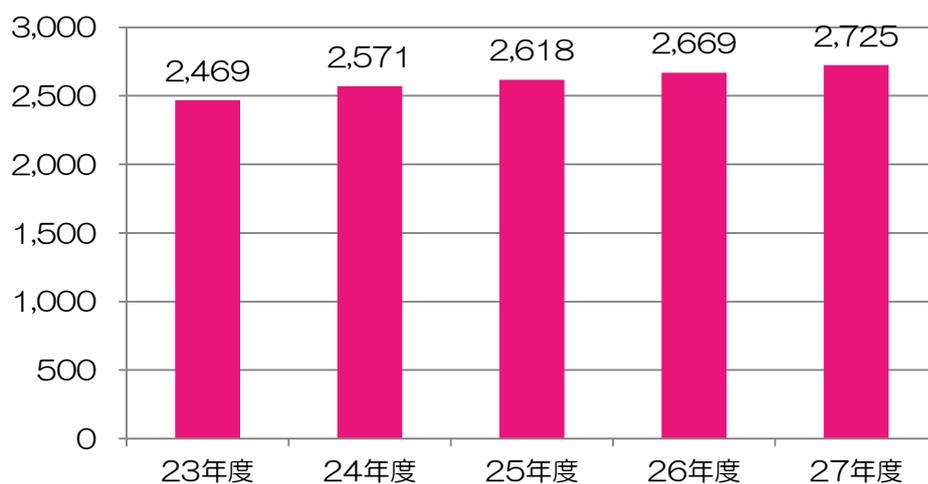
市内公共空地等に植栽

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
市内の緑被面積 3,000 m²	2,725 m²



緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。

(m²) 過去5年間の市内緑被面積の推移（累計）

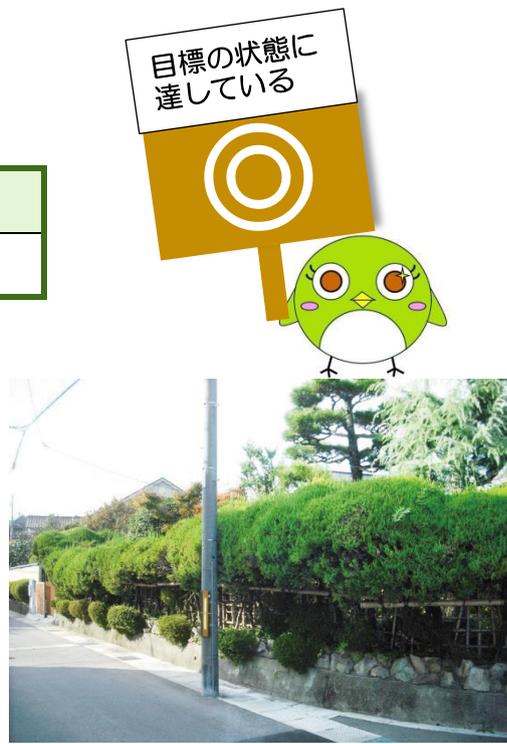


生け垣等の設置費助成の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
助成事業の継続	助成事業の継続

住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。
長岡京市では、緑ゆたかなまちづくりを推進するため、新たに生け垣を設置する場合や、既存のブロック塀を生け垣に替える場合に、助成金を交付しています。

平成27年度も助成事業を継続し、3件の助成を行いました。
また隣り合った2軒以上のお宅と一緒に生け垣を設置したり、雨水タンクを設置したりする場合など助成金が割増しされる場合があります。



生け垣設置箇所

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
住民一人あたりの公園面積 2.85㎡	2.78㎡

※京都府下の平均 7.54㎡（平成26年度）

本市は、市域が狭いうえ、約4割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成26年度には、京都縦貫自動車道の高架下の緑地空間や恵解山古墳公園が整備され、また平成28年度には西代里山公園が完成予定です。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。



平成26年10月開園 恵解山古墳公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
みどりのサポーター数 95 団体	94 団体



平成 16 年 10 月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路を掃除したり、植栽などを行ってくれるグループを支援する制度です。平成 27 年度は 5 団体増加しました。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草だらけでなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていきたい。」など様々な思いを持って、平成 27 年度は 1, 262 人のサポーターが活動しました。

(2) 環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装や車道の遮熱性舗装の施工

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
設計に反映し、長岡京駅前線の一部で施工	用地買収を実施（継続）



平成 26 年度に行った長岡京駅前線第 3 工区（産業文化会館前までの 111m）の詳細設計に基づき、用地買収を進めています。施工には至りませんでした。歩道に雨水がたまりにくくするための「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる「遮熱性舗装」の施工を行い、住みやすい都市整備を進めていきます。

長岡天神駅高架化の検討

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
長岡天神駅周辺整備計画の検討	地元住民による「まちづくり協議会」発足

踏切による事故や渋滞の解消、中心市街地の活性化を目的とし、鉄道と道路の立体交差化や、区画整理事業などの周辺整備を含めた長岡天神駅周辺まちづくり基本計画の策定に向けて検討を進めています。

平成 27 年度は地元住民による「まちづくり協議会」が発足し、勉強会を 2 回、現地視察を 1 回開催しました。

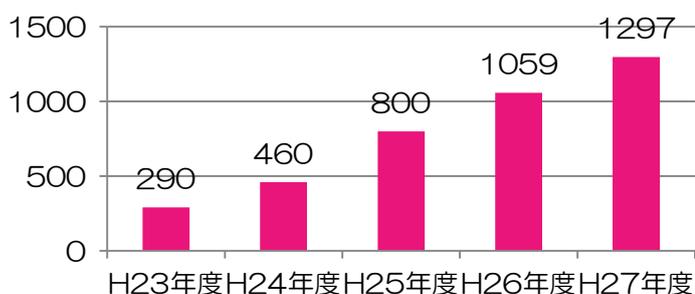


②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
延伸	238m延伸

(m) 歩行者道の整備状況 (累計)



平成23年度から、道路にレンガ色のカラー舗装を行い、「歩行者道」として整備を行っています。平成27年度は、神足3丁目(78m)と開田2丁目(160m)の整備を行いました。今後も歩行者が歩きやすいよう整備を行っていきます。



平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
京都府による長岡京駅前線・アゼリア通りの整備着手	長岡天神駅周辺まちづくり協議会と方針検討

平成25年度に計画したアゼリア通りの電線類地中化については、京都府による詳細設計の結果、工事による地域に与える影響が大きいため、費用対効果の面から実現に向けては更なる検討が必要です。

第7期無電柱化推進計画については、策定に向けた国の動きが現在も進展していません。

またアゼリア通りの無電柱化については長岡天神駅周辺の全体整備計画と併せて検討していく必要があり、長岡天神駅周辺まちづくり協議会と駅前ひろばなどについて検討を行っています。



③個性ある景観の保全・形成

景観計画の重点地区の指定検討

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
景観計画の重点地区の指定	景観デザイン審議会での検討(継続)

本市では、個性ある景観を保全するため、景観法第8条2項に基づき景観計画により市域すべてを「景観計画区域」に指定しています。景観重点地区とは、この「景観計画区域」に指定されている地区で、市長が特に景観形成の施策が必要と認めたと対し、指定することができるものです。

平成27年度は、前年度に引き続き、担当課及び景観デザイン審議会において検討しましたが、具体的な重点地区の指定にまでは至りませんでした。平成28年度は、具体的な重点地区の指定を行う予定です。



(3) 歴史文化資源の保全・活用

①歴史的な名所の活用

神足ふれあい町家の活用

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
入館者数の維持 (平成 24 年度 15,094 人)	16,416 人 (前年度比+1,559 人)

神足ふれあい町家は、西国街道沿いにある江戸時代末期の商家です。風情ある町家建築の建物で、平成 12 年に国登録の有形文化財に指定されました。現在は、和室などをイベントスペースとして貸し出しています。こうした歴史的な建物や名所を活用し、多くの人に訪れてもらうことで、長岡京市らしい文化やまちなみを今後も継承し、保全していきます。



②ふるさと資料館の整備

(仮称) 長岡京市ふるさと資料館の設置に向けた検討

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
(仮称) 長岡京市ふるさと資料館基本計画の策定	京都府南部地域ミュージアム連絡協議会への出席

市内に点在する文化財とその周辺環境を保全するためにも、長岡京市全域の文化財と展示施設を「まちなか博物館ネットワーク」として有機的につなぐ中核施設が必要です。

そのための基本的な考え方やその実現までのみちのりなどを検討した「(仮称) 長岡京市ふるさと資料館基本構想」を策定しました。平成 27 年度は、基本計画の策定には至りませんでした。京都府南部地域ミュージアム連絡協議会へ 2 度出席し、他市事例の情報収集に努めました。



(4) 環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

530運動参加団体への支援

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
支援継続	117 団体

530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分たちの問題として考えようという運動です。5月30日(ごみゼロ)にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治体なども参加して行っています。

市では、この運動に参加してくれる団体に、ごみ袋や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。



②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロールの実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
パトロール実施回数 20回/月 1回/日	16回/月 1回/日



ポイ捨ての指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。回収したごみの量は、たばこ42,633本、缶・ビン2,079本でした。

(5) 適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
基準超過件数の減少 (平成 24 年度 8 件)	基準超過件数 9 件 (前年度比 - 1 件)



市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。平成27年度の調査では、211項目中9件で基準値を超過しました。毎年10件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
広報紙への生活環境マナー啓発記事の掲載	啓発記事の掲載 3回

平成27年度は、犬猫里親募集、まちをきれいにする条例啓発、不法投棄対策などについて啓発を行ったほか、パソコンや小型家電の宅配便回収サービスの取り組みをあわせて紹介しました。



5. 協働・環境学習・エコアクションの推進



環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
受講者数延べ 50 人	受講者数延べ 54 人

(1) 市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

市民活動サポートセンターの管理運営

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
市民活動サポートセンター 利用者数 13,250 人 団体登録数 135 団体	利用者数 10,698 人 団体登録数 120 団体



市民活動サポートセンターは、社会貢献活動を行う市民活動の拠点施設です。市民活動についての相談の場や NPO（非営利活動団体）・市民活動団体の交流の場になっています。また、チラシづくりや会議などさまざまな活動に利用されています。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
研修受講者の紹介等	ステップアップ・チャレンジ会議の開催



平成 25 年度から準備を始め、平成 26 年度から本格的に始動したステップアップ・チャレンジ会議のメンバーに、省エネナビモニターから参加したり、メンバー募集のホームページの記事を見て高校生が参加したりと少しずつではあるが担い手に広がりが出てきています。今後も引き続き、ステップアップ・チャレンジ事業の推進とともに、新たな担い手を発掘する機会を作り、活動の裾野を広げていきます。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

プラットフォームづくりに向けた準備会議の立ち上げ

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
プラットフォームとして中間支援事業を実施	市民活動応援補助金を提案



当初想定していたステップアップ・チャレンジ会議における中間支援組織の母体となるプロジェクトは現状立ち上げが難しくなっています。平成27年度は、市民活動応援補助金のテーマとして竹の利活用に関する内容を提案し、平成28年度のテーマとして採用されました。この補助金を活用することにより竹林整備団体間の連携されることも期待しています。

(2) 環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
受講者数延べ50人	延べ54人



平成28年2月に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座（受講者16人）を実施しました。当日は30代から70代までの幅広い世代の方が参加し、西山の取り組みについての説明と安全面についての講習の後、竹林に入って整備作業を体験しました。実習にあたっては、市内の2つのボランティア団体にもご協力いただき、団体紹介やメンバー募集、意見交換を行い交流を図り、参加者がボランティアとして一歩を踏み出すための工夫を心がけました。

<教員向け>西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
延べ40人	延べ75人



西山での研修の様子

小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。平成27年度で4年目を迎えたこのオリエンテーションは、各小学校に周知されたこともあり、受講者数も定着してきました。（H27年度：20人） 実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体との連携を図るとともに、環境学習や遠足に活かせる、より実践的な研修を目指しています。

②グリーンコンシューマー活動の支援

グリーン購入の促進

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
購入率 97.0%	99.2%



市役所では、文具類や紙類などの117品目をグリーン調達品目として、グリーン購入を推進しています。グリーン購入とは、リサイクル製品や詰め替え用のある製品など環境への負荷が低いものを購入することです。市役所では、平成13年度からグリーン購入率を把握し、職員への啓発を行っています。

また京都グリーン購入ネットワークの会員（幹事）として、京都府下でのグリーン購入の推進にも協力しています。

③環境地域通貨の導入

検討チームの立ち上げ

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
検討チームの立ち上げ	検討会議開催



環境地域通貨とは、環境負荷を減らすために地域内で循環し、何らかの価値を持ち流通する通貨をさします。

他市での事例においても、目的によりさまざまな活用の仕方があるため、エコストアを活用した計画について関連部署で検討会議を行いました。今後も検討を進め、市としてどのような目標に向かっていくかを含めて検討していきます。

また市では、京田辺市の事例をヒントに、使わなくなった衣料品や食器、おもちゃ等を市民から集め、市民環境団体がイベントでリユース品として安価で販売し、市へ寄付する取り組みを平成25年度から実施しています。平成27年度は55,811円の売上げがありました。

(3) 環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
各学年指導時間数 小学校 22 時間以上 中学校 3 時間以上	各学年指導時間数 小学校 17.6 時間 中学校 11.9 時間

環境学習は、すべての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を学年と学校数で割りました。また授業時間中だけでなく、休み時間や放課後などの取り組みも充実してきています。学校により実践内容に違いがありますが、学校農園をはじめ、井戸や雨水タンク、太陽光パネルといった各学校の特色を活用した学習が行われています。

中学校でも教科書を中心とした学習のほか、長岡京市の特色である「西山」や「竹」についての学習を行っています。



出前講座・環境講演会・スターウォッチング等の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
参加者数 150 人	286 人

出前講座（3回）・環境講演会・スターウォッチング（夏/冬）・バードウォッチングを実施しました。また2回目の開催となる「長岡京環境検定」は、55名が受検しました。

今後も、より身近に参加できる環境学習の機会づくりに取り組んでいきます。



バードウォッチング（カワセミ）

こどもエコ教室・環境教育ミーティング等の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
参加者数 330 人/年	179 人/年

公民館で主催している環境教育関連2事業のうち、「子どもエコ教室」は、参加者のニーズを精査し、平成27年度から実施回数を8回から4回に変更して実施しました。参加者総数は、昨年度より4人多い89人となりました。「環境教育ミーティング」（全6回）の参加者は90人で、前年度より参加者数が減少しました。今後は広報を工夫するなどし、より参加者を増やす取り組みを行っていきます。



子どもエコ教室

②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
4回・100人参加	4回・149名

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう事業です。平成 25 年度から京都府立大学の学生サークルとの連携を始め、ボランティアや大学生の活躍によって活動自体が活気づき、徐々に参加人数も増えてきました。今後も、身近にある西山の魅力を知ってもらうとともに、家族や参加者同士の交流も深められるようなプログラムを企画していきます。



西山ファミリー環境探検隊

西山を活用した環境教育の実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
小学校 10 校	小学校 10 校

春の遠足では、10小学校全校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足の際には、西山で活動するボランティア団体が同行し、児童への説明やアドバイスなどの協力を行っています。

薪ストーブを設置している神足小学校では、将来の森づくりに向けた新しい環境教育プログラムとして、西山で拾ってきたドングリを学校で苗木に育て、その苗木を3年生が西山に植樹するという実践的な学習に取り組んでいます。また冬には拾ってきた柴や薪を用いて、薪ストーブの火入れ式を行っている。



ドングリの苗の植樹

③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹遊びなどのイベントの実施

平成 27 年度の目標	平成 27 年度の結果
参加者数延べ約 8,000 人	参加者数延べ約 9,560 人

平成 27 年度は、6月に「ホテル観賞の夕べ」、8月には「打ち水大作戦」、10月には放置竹林の啓発を行う「長岡京竹あそび」、「環境フェア」を開催しています。いずれも事業所や環境活動団体の皆さんと一緒に市が主催や協力をして実施しています。また自然環境の大切さや身近な環境への取り組みの必要性を啓発し、周知するためのイベントです。

